

尿道内尖圭コンジローマの1例

亀岡クリニック (院長: 亀岡 博)
亀岡 博

医療法人蒼龍会井上病院泌尿器科 (医長: 児島康行)
児島 康行

大國診療所 (院長: 大國 剛)
大國 剛

INTRAURETHRAL CONDYLOMA ACUMINATUM:
A CASE REPORT

Hiroshi KAMEOKA
From kameoka Clinic

Yasuyuki KOJIMA
From the Department of Urology, Inoue Hospital

Tuyoshi OKUNI
From Okuni Clinic

A 47-year-old man presented with meatal bleeding. Visual inspection revealed papillary meatal tumors at 5 and 7 o'clock without other genital warts. These lesions were completely resected, and the histological diagnosis was condyloma acuminata. After 2 months, recurrence of warts was not observed macroscopically in the genital area, including the urethral meatus. However, urethroscopy revealed a papillary tumor in the navicular fossa. This lesion was removed and pathological examination revealed that it was also a condyloma acuminatum.

(Acta Urol. Jpn. 50 : 409-411 2004)

Key words: Condyloma acuminatum, Urethral tumor

緒 言

尖圭コンジローマは、2001年性感染症サーベイランスでは年間約3.9万人の患者数が推定される代表的性感染症の1つである¹⁾が、確立された根治的治療もなく、しばしば制御に難渋する疾患である。欧米においては、外尿道口をも含む尿道発症例は5~33%とされている^{2,3)}が、本邦での尿道尖圭コンジローマの報告は40数例程度であり、比較的稀とされている^{4,5)}。今回内視鏡にて観察しえた尿道内コンジローマ症例を経験したので報告する。

症 例

47歳, 男性。未婚者, 月に1回程度性風俗女性との性的接触歴を有し, 2002年11月より外尿道口からの出血に気づくも放置。徐々に出血頻回となり同年12月5日当院初診。外尿道口5時, 7時に径3mmの疣贅性病変を各1個認めるも他部位には認めず。軽度の尿道炎所見を認めたが, クラミジア陰性 (EIA法), メチレンブルー染色にて双球菌陰性。非淋菌性非クラミジ

ア性尿道炎に対し抗生剤投与後, 局所麻酔下にて外尿道口疣贅切除術施行。外尿道口を可能な限り反転し, 完全切除と判断。

組織学的には, 明るい胞体を有する koilocytosis を認め, 異型性には乏しく尖圭コンジローマの診断をえた。



Fig. 1. Urethroscopy revealed condyloma acuminatum in the navicular fossa.

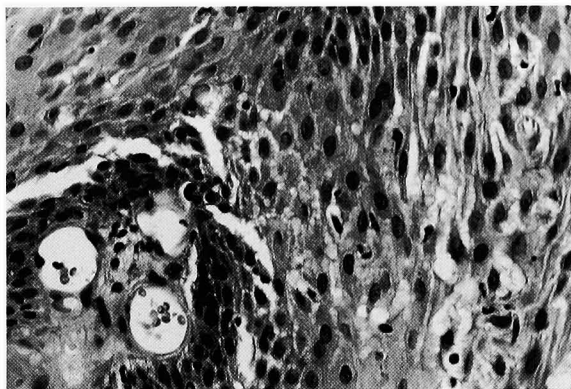


Fig. 2. Histology of intraurethral (navicular fossa) condyloma acuminatum.

2カ月後、外陰部、外尿道口に再発を認めず、2003年2月8日尿道鏡施行。舟状窩6時を中心に乳頭状腫瘍を認めるも (Fig. 1)、尿道他部位に異常認めず直視下切除困難と判断し、井上病院泌尿器科に紹介。

同年2月26日、同院にて腰椎麻酔下での、内視鏡下切除を試みたが、腫瘍は外尿道口に近接しており、内視鏡下切除困難なため、外尿道口切開施行後、直視下に舟状窩腫瘍を切除。外尿道口疣贅同様、尖圭コンジローマと診断された (Fig. 2)。術後、転居のため関東地方の泌尿器科を1回受診したのみで、詳細な経過は不明である。2003年1月時点、患者との電話連絡では、内視鏡は未施行ではあるが、体表上明らかな疣贅病変は認めていないようである。

考 察

通常、尿道尖圭コンジローマは尿道内および外尿道口病変を併せ集計され、本邦においては比較的稀とされており、1994年月川ら⁵⁾の集計は46例にとどまっている。表は、当院における男性外尿道口コンジローマ

Table 1. Cases of male meatal condyloma acuminatum

Male meatal condyloma (2001 Oct-2003 Oct)				
Pt	Age	Other sites	P/R ¹⁾	Intraurethral CA ²⁾
3734	40	—	P	ND ³⁾
4456	28	—	R	(—)
3530	53	glans, prepuce	P	ND
4600	32	—	P	(—)
5479	47	—	P	(+)
5579	33	glans	P	(—)
5876	41	shaft	P	ND
6008	23	—	P	(—)
6105	34	glans, prepuce	P	ND
1499	29	glans	P	ND
6526	35	—	P	(—)

P/R¹⁾: Primary/Recurrent episode, CA²⁾: condyloma acuminatum, ND³⁾: Urethroscopy was not done.

症例である (Table 1)。最近25カ月間で、男性コンジローマ計115例中11例9.6%に、外尿道口病変を認め、欧米の5~33%という発生頻度とほぼ一致し、本邦では未報告例が多数存在するものと推測される。

Nathan ら⁶⁾は、尿道鏡検査にて男性外尿道口コンジローマ21例中57.1%に尿道内コンジローマを認め、外尿道口コンジローマ症例に対する尿道鏡の必要性を報告しており、当院においても男性外尿道口コンジローマ11例全例に内視鏡の必要性を説明したが、施行は6例にとどまり1例に尿道内病変を見出した。なお11例中6例は他の外陰部に疣贅性病変を認めなかった。

従来の尿道鏡検査に加え、Schneede ら⁷⁾は蛍光尿道鏡を用い、コンジローマ既往歴のある84例中、通常の尿道鏡にて30例、蛍光法により13例の微小病変を見出し、その有効性を報告している。

尿細胞診に関しては、Fralick ら⁸⁾は、14例の尿道内コンジローマ中陽性は1例のみであり、有用性を否定している。また Iwasawa ら⁹⁾は尿中 PCR 法の有効性を報告しているが、近年無症候性 HPV 感染例が相当数存在することが知られてきており¹⁰⁾、尿中 HPV 検出の臨床的意義に関しては議論の余地がある。

治療法に関しては、切除術、電気焼灼術、凍結療法、5-FU 軟膏などに加え、近年インターフェロン、BCG の尿道内注入^{11,12)}も試みられ、従来の治療法と同等の臨床効果をえているが、経済的には、今後の普及は困難と考える。

さらに最近欧米では interferon α などの誘導剤である imiquimod が用いられている。Beutner ら¹³⁾は imiquimod 5%クリーム剤を外陰部疣贅94例に使用し、消失率52%、再発率19%と従来の治療法とほぼ同等の成績ではあるが、副作用として中等度以下の局所炎症反応を34.8%にみるのみであり、患者自身が簡便に使用できる利点を有しており、今後期待される治療法の1つであるとしている。

また Franco¹⁴⁾は cimetidine 長期内服による外陰部疣贅消失例を報告しており、興味深いところである。

しかし、いずれの治療法も確実性に欠き、一方疣贅自然消失率も3カ月以内で10~30%である¹⁵⁾ことより、尿道鏡以外の諸検査法による尿道内微小病変検索の臨床的意義は少ないと考える。また外尿道口病変を有さない尿道内発生は稀であり^{4,8)}、尿道鏡の適応は外尿道口病変を有する症例に限るのが適切と考える。

結 語

尿道内 (舟状窩) に発生した尖圭コンジローマの1例を報告し、若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は第185回日本泌尿器科学会関西地方会において報告した。

文 献

- 1) 熊本悦明, 塚本泰司, 利部輝雄, ほか: 日本における性感染症 (STD) サーベイランス—2001年度調査報告—. 日性感染症会誌 **13**: 147-167, 2002
- 2) Debenedictis TJ, Marmar JL and Praiss DE: Intraurethral condylomas acuminata: management and review of the literature. J Urol **118**: 767-769, 1977
- 3) Rosemberg SK: Sexually transmitted papillomaviral infection in men. Dermatol Clin **9**: 317-331, 1991
- 4) 山下真寿男, 後藤章暢, 武中 篤, ほか: 後部尿道に発生した尿道尖圭コンジローマの1例. 泌尿紀要 **37**: 1559-1562, 1991
- 5) 月川 真, 高山仁志, 今津哲央, ほか: 女子尿道尖圭コンジローマの1例. 泌尿紀要 **40**: 897-900, 1994
- 6) Nathan PM, Thompson VC, Sharmacharja G, et al.: A study of the prevalence of male intrameatal warts using meatoscopy in a genitourinary medicine department. Int J STD AIDS **6**: 184-187, 1995
- 7) Schneede P, Münch P, Wagner S, et al.: Fluorescence urethroscopy following instillation of 5-aminolevulinic acid: a new procedure for detecting clinical and subclinical HPV lesions of the urethra. J Eur Acad Dermatol Venereol **15**: 121-125, 2001
- 8) Fralick RA, Malek RS, Goellner JR, et al.: Urethroscopy and urethral cytology in men with external genital condyloma. Urology **43**: 361-364, 1994
- 9) Iwasawa A, Hiltunen-Back E, Reunala T, et al.: Human Papillomavirus DNA in urine specimens of men with condyloma acuminatum. Sex Transm Dis **24**: 165-168, 1997
- 10) 塚本泰司, 高橋 聡, 国島康晴, ほか: 性感染症としての human papilloma virus (HPV) 感染症—1) 泌尿器科の立場から. 化療の領域 **16**: 2039-2043, 2000
- 11) Levine LA, Elterman L and Rukstalis DB: Treatment of subclinical intraurethral human papilloma virus infection with interferon alfa-2B. Urology **47**: 553-557, 1996
- 12) Böhle A, Doehn C, Kausch I, et al.: Treatment of recurrent penile condylomata acuminata with external application and intraurethral instillation of bacillus Calmette-Guerin. J Urol **160**: 394-396, 1998
- 13) Beutner KR, Tying SK, Trofatter Jr KF, et al.: Imiquimod, a patients-applied immune-response modifier for treatment of external genital warts. Antimicrob Agents Chemother **42**: 789-794, 1998
- 14) Franco I: Oral cimetidine for the management of genital and perigenital warts in children. J Urol **164**: 1074-1075, 2000
- 15) Brown TJ, Yen-Moore A, Tying SK, et al.: An overview of sexually transmitted diseases, Part II. J Am Acad Dermatol **41**: 661-677, 1999

(Received on January 5, 2004)

(Accepted on February 10, 2004)